

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会認定
家庭医療後期研修プログラム認定申請書

2011年 2月23日

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会

理事長 殿

以下に記載した内容で、貴学会認定家庭医療後期研修プログラムとして認定していただけますようお願いいたします。

申請者*署名 齊藤 匡

*申請者はプログラム責任者になる予定の方です

1. プログラム名称 (「家庭医療」や「家庭医」を含むことを推奨、他のプログラムと容易に区別できること)			
多古中央病院 家庭医後期研修プログラム「スカイアクセス」			
2. プログラム責任者			
プログラム責任者氏名	齊藤匡	指導医認定番号	申請中
所属・役職	医局長		
所在地・連絡先	住所 〒 289-2241 千葉県香取郡多古町多古 388-1 電話 0479-76-2211 FAX 76-3286 E-mail		
連絡担当者氏名*・役職	*プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合のみ記載		
連絡先	電話	FAX	
	E-mail		
3. プログラムの概要			
<p>地域病院基盤型の日本プライマリ・ケア連合学会認定制度プログラムで、後期研修医、開業のため幅広い研鑽を積みたい医師、休業から復帰のためのトレーニングを望む医師を想定しています。</p> <p>国際空港で知られる成田市への隣接する多古町にある当院は多古町立の病院で、110床の一般病床と56床の療養病床を有し、常勤医は内科4名、外科4名、小児科2名で、千葉大学と筑波大学から非常勤医師の派遣を受けています。H24年現在、1名が家庭医療後期研修プログラムで研修中です。高齢化が進む地域にある病院の使命である内科疾患のプライマリケアを間断なく提供し、検診事業なども活動的に行う一方、小児科常勤医が活動する貴重な1次2次救急の病院として、近隣のみならず複数の離れた医療圏へも貢献しています。外科は増加する交通外傷への処置から全身麻酔手術まで幅広く対応し、近年は局所麻酔でのヘルニア手術や鏡視下手術など、最先端で低侵襲な治療への取り組みを続けています。急性期病院としての評価も高く、救急車受け入れはH21年度には328台、H22年度459台、H23年度491台であり、平均在院日数は約20日です。</p> <p>内科はプライマリケアと急性期から慢性期までの長期的な視点で患者への診療にあたり、医療と介護のスムーズな連携を自ら組み立てていけるようになることを目標とします。外科では手術へのチームとしての参加や、地域医療では需要の多い交通外傷への対応も学び、小児科ではプライマリケアに加え、行政や他の医療機関との対話を重ねる予防接種事業に対しても深く関与できます。検診事業と併せて、消化器内視鏡検査と心臓エコー検査、腹部エコー検査は件数が多く、十分な修練を積むことができます。</p> <p>MRIやマルチスライスCT、最新型エコーなど多くの画像診断装置はH21年から22年にかけて更新され、放射線技師も増員され稼働率が高く、内視鏡も現在更新を検討中です。院内LANで閲覧できる画像で、千葉大学から派遣される放射線科医の指導の下、読影を学ぶことができます。</p> <p>チーム主治医制度となっており、オフの時間は十分な休養を取ることができ、ゴルフやサーフィン、釣りなどのスポーツを楽しみ、地域の祭りへの参加で地域に溶け込むことが出来ます。</p>			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

D 4. 研 修 期 間			
3 年間			
5. 後期研修医定員			
1 年あたり 3 名			
6. プログラム内容			
家庭医療専門研修			
研修領域	期 間	研修施設名 (病院の場合は診療科名も)	指導医氏名
家庭医療専門研修 (連続した6ヶ月以上)	12 ヶ月	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	斉藤匡
		<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	中島賢一
		<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	小久保茂樹
家庭医療専門研修について次の要件を満たす場合は口を塗りつぶす (■) ■ 主として家庭医療を実践している医療機関である ■ 外来における患者中心のケアを研修できる ■ 近接的なケアを研修できる ■ 継続的なケアを研修できる ■ 包括的なケアを研修できる ■ 保健や介護関連の活動を研修できる ■ 家族指向、地域指向のケアを研修できる			
必修の領域別研修			
研修領域	期 間	研修病院名・診療科名	指導医氏名
内 科 (連続した6ヶ月以上)	6 ヶ月	当院内科	中島賢一
		当院内科	馬場徹
		当院内科	宇都宮隆法
内科研修について次の要件を満たす場合は口を塗りつぶす (■) ■ 臓器別ではない総合 (一般) 内科または総合診療科である ■ 入院診療および外来診療を研修できる <input type="checkbox"/> 家庭医の研修に必要な範囲内で臓器別内科の研修をする場合がある その場合の 診療科名 _____ およその期間 _____			
研修領域	期 間	研修病院名・診療科名	指導医氏名
小 児 科 (連続した3ヶ月以上)	12 ヶ月	当院小児科	斉藤匡
		当院小児科	中村好孝
小児科研修について次の要件を満たす場合は口を塗りつぶす (■) ■ 総合的に小児領域の研修ができる ■ 入院診療および外来診療を研修できる			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

望ましい領域別研修			
研修領域	有無, 選択・必修の別 および期間	研修施設名・診療科名	指導医氏名
一般外科	必修・選択・なし 6ヶ月	当院外科 当院外科	小久保茂樹 藤崎安明
産科婦人科	必修・選択・なし ___ヶ月		
精神科/心療内科	必修・選択・なし ___ヶ月		
救急医学	必修・選択・なし ___ヶ月	(注: 各科対応)	
整形外科	必修・選択・なし ___ヶ月	当院整形外科	担当医師
皮膚科	必修・選択・なし ___ヶ月	当院皮膚科	山本医師
泌尿器科	必修・選択・なし ___ヶ月		
眼科	必修・選択・なし ___ヶ月		
耳鼻咽喉科	必修・選択・なし ___ヶ月		
放射線科 (診断・撮影)	必修・選択・なし ___ヶ月	当院放射線科	担当医師
臨床検査・生理検査	必修・選択・なし ___ヶ月	当院検査科	検査科主任
その他の選択科	必修・選択・なし ___ヶ月		
7. 後期研修医の評価方法 (研修修了認定の方法も含めて)			
研修プログラムが満足に出来ているか、定期的に面談を行い評価します。 研修実績の確認、また、疑問点の解決を指導します。 プログラムについては、総研修期間や診療科毎の研修期間も適宜調節しますのでご相談ください			
8. プログラムの質の向上・維持の方法			
研修医との双方向評価を通じて、プログラムを機動的に改善します。他の後期研修プログラムを実行している医療機関と定期的に意見交換を行い、当院のプログラムを改良します。 プライマリケア連合会主催の研修会にも指導医を積極的に参加させ、指導医自身のレベルアップを図ります。 千葉県と国保旭中央病院や千葉大学の事業である医師キャリアアップ・就業支援センター構想など、必要時や希望時には外部研修についても適宜取り入れます。			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

当院の検査機器の紹介



当院の検診事業で多くの消化管のがん患者がピックアップされ、手術症例を獲得してきました。その中心的な役割を担うために、常に新しい装置の導入を検討しています。

また、千葉県からの要請で検診事業の一層の拡大を求められており、企業検診等の若年者への対応など、これまで以上の装置やカプセル型内視鏡なども検討されています。



SIEMENS 社製 1.5T MRI 装置

MR I は中枢神経疾患や脊椎病変、また、腹腔内臓器の診断に有用で、当院ではソフトのバージョンアップを重ね、体動を抑制できない被検者の撮影も出来るようになりました。MR アンギオグラフィーでは脳動脈や四肢の動静脈の描出が可能です。

腹腔内臓器の評価に関しては、当院ではエコー、CT、MRI の三つの機器を組み合わせることで、早期癌、特に肝胆膵癌の発見に大きな成果が現れてきた。

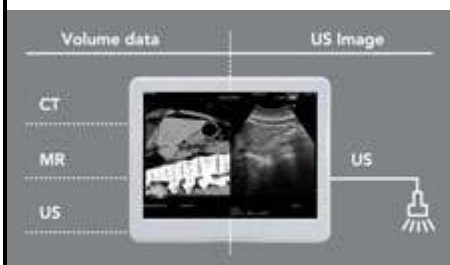
年間 1000 例の症例を検査しています。近日中に更新予定です。



SIEMENS 社製 16 列 マルチスライス CT 撮影装置

16 列という数字はやや時代遅れの印象もありますが、取り回ししやすく、当院のような小さな CT 室にマルチスライス CT を設置するためには、H19 年医療機器登録の最新の SOMATOM エモーション 16 の登場を待たなければなりません。H22 年導入のこの 16 列 CT はコンパクトで、アルバイトの当直医でも夜間に一人で簡単に撮影できるシンプルさが特徴です。液体ベアリングで架橋された鋭敏な X 線検出管 DURA 422 と改

良を加えられたワークステーションによる補正で精細な画像が得られるため、通常ならアーチファクトが多い脳幹部の脳梗塞にも MRI と同レベルの評価が可能で、内視鏡が難しい被検者の腸管臓器を CT 画像から再構成して得ることも出来ます。造影剤を使えば、バーチャル・アンギオグラフィーも可能です。しかし、そのような高性能よりも、後述のエコー機器との連動はずっと重要です。年間 2000 例の症例を検査しています。



超音波診断装置 Hitachi Preirus

H23 年に入り検討を重ねて導入が決定されたのが、この超音波診断装置です。最新のコンセプトに基づく機能や高性能化が進む画像診断装置のなかで、エコー機器は検者の職人技的な技術が必要になり、検査の検者間の再現性が問題となっていました。そのため、当院が導入したのは Hitachi Preirus です。この装置は超音波や CT、MRI の画像を表示させながら、今エコーで見ている画像が他の検査でどのように見えていた断面かを表示す

ることが出来ます。このことで、術者間の検出眼のばらつきや苦手意識を克服できるようになりました。エコー検査技術を習得する際にも、大きな助けになります。当院は神経質な高性能機器ではなく、扱いやすいガイド機能を持つ Hitachi Preirus を選びました。地域医療では大きな支援となるエコー検査の技術を、是非当院で身につけて欲しいとおもいます。

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

各科紹介

当院内科は4名の常勤医(1名は女性)、2名の非常勤医で運営されています。1日90人前後の外来患者と50名の入院患者の治療にあたっています。外来ではプライマリケアから診断、治療まで担当します。検診結果を基に精査していく過程で、鑑別疾患を考察する力を付けていきます。

幅広い内科領域の疾患をカバーするために、近隣の3次病院の専門医へコンサルトしつつも、交通の便が悪い地域故に、院内で出来ることはやっていくスタンスです。

入院治療は肺炎・尿路感染症・急性腸炎や心不全、脳梗塞などの内科疾患が高い割合を占めますが、診断がついていない不明熱や全身倦怠感、意識障害なども検査を繰り返しながら診断、治療に結びつける論理的思考を磨くこととなります。内科医と外科医がカンファレンスにも満たないコンサルトで、画像や症例について意見を交換し、内科から垣根なく手術症例として外科へ転棟することで、待機無しの手術が可能です。

また、当院は療養病棟を併設しており、疾患により体力やADLが低下した患者に対して、生活基盤を整える間にADL訓練を行っていきます。当院自体は成田市に近いとはいえ、交通の便が悪い山間部に住む患者のため、往診や訪問看護と連携した訪問診察に出かけることもあります。

当院外科の特徴は、患者の初期診療から、術後のフォローまで一人の患者に一貫して携わることです。症状から問診、診察、検査を自ら施行し、診断、手術、術後のフォロー、癌であれば再発した場合の末期のケアまで責任を持って関わっていきます。また、必要があればIVHポート留置を行い、効果が見込めれば漢方薬なども取り入れ、福祉部門と協力して在宅で看取ることもあります。患者の個性や家族のマンパワーなどを見極めながら、個々の患者毎にベストを尽くせる環境が整備されています。

麻酔は自家麻酔で局麻、腰麻、硬膜外麻酔、全身麻酔を行い、H21年度は90件の手術を施行しました。気管内挿管のトレーニングも積むことが出来ます。高齢者の増加と共に低侵襲な手術に取り組んでいて、局所麻酔下での鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア、閉鎖孔ヘルニア根治術や、腹腔鏡下での早期胃癌に対する幽門側胃切除術や、進行大腸癌に対する結腸切除(低位前方切除も含む)も積極的に行っています。腹腔鏡手術を行うため、最新の設備が導入されています。

また、外来では外科疾患だけではなく、非常勤の各科の専門医師と相談しながら、整形外科、皮膚科、泌尿器科のプライマリケアを引き受け、診断と治療にあたっています。

当院小児科では専門医2名で診療に当たっており、1次救急から入院診療、予防接種や乳児検診まで幅広く対応しています。急性疾患の多い小児科領域では短期間に複数回外来受診してもらい、症状の経過を把握することが重要となることも多々ありますが、3次病院等での研修や常勤医のいない病院での研修では毎回診察する医師が違うということもよく起こりますが、当院ではその点ほぼ毎日外来診療を行うため症状に加え、家族の状況、地域や学校での疾患の流行状況の把握や関係構築は比較的容易です。また、家族内感染の症例などでは小児科で家族の成人も含め治療を行うこともあります。

外来診療は常に2診察ブースで行っており、複雑な経過の症例や処置に関しては気軽に相談できる体制となっています。

検査は内科で心エコー、内科および外科で腹部エコー、上部および下部消化管内視鏡検査を施行します。カメラが難しい患者には胃バリウム検査や注腸検査も選択されます。

H22年1月から12月までで腹部エコーは844件、心エコーは220件施行された。心エコーに関しては他院から研修を受け入れています。同時期に上部消化管内視鏡は863件、下部消化管内視鏡は256件施行されました。クリッピングは22件、生検494件でした。

中小病院の宿命として症例に時期的な偏りや、年度を通じて少ないことも考えられ、十分な研修を積めるよう、例えば内科研修中に外科で興味深い症例が発見された際には、そのままその症例を担当し、同時に小児科の予防接種事業に入ってもらいなど、柔軟なスケジュールを組むことを念頭に置いています。また、外部の研修病院や研修期間とも連携を模索中です。

H24年度の当院の重点目標は、当院の目玉として漢方診療を各科に取り入れることで、準備中です。

院内で人気のスポーツはゴルフ、スキー、釣りで、サークル活動も盛んである。